



精神科の新しい治療あれこれ

精神科 長谷川 雄介



精神科は他の科に比べて画期的な新しい治療、というのはなかなかないのですが、最近の話題をお知らせしたいと思います。

①抗アミロイドβ抗体療法

これまでアルツハイマー型認知症の治療薬としてはドネペジル、ガランタミンなどのアセチルコリンエステラーゼ阻害薬やメマンチンなどのNMDA受容体拮抗薬といった経口での薬物療法が主体でした。2023年12月よりレカナマブが、2024年11月よりドナネマブが発売開始となり、点滴でアルツハイマー型認知症の原因になる神経毒性を持つアミロイドβを除去する治療が可能となりました。レカナマブは2週に1度、ドナネマブは4週に1度の点滴が必要となります。副作用として頭痛、悪寒、発熱、吐き気、嘔吐などのinfusion reactionや、アミロイド関連画像異常（ARIA: Amyloid-Related Imaging Abnormalities）などがありますが、ステロイドを予防投薬したり、点滴前にMRIを撮ったり等の対処をして施行しております。事前にアミロイドPETが必要な事や高額な費用などの問題がありますが、負担にならないように対応したいと思います。

②サイマトロン200

当院では年間150件以上の修正型電気けいれん療法を行っておりますが、これまでの治療器では十分なけいれんが得られない事がありました。特に脳萎縮が進んだ高齢者では電気が通りがたく、100%の刺激でもけいれんが得られない事が

問題となっております。そのため2023年12月18日より、従来よりも高出力であるサイマトロン200が発売されておりますが、まだ

全国でも導入されている施設は限られております。当院では導入できるよう準備を進めている途中です。導入されれば連携医の皆様に早急に周知したいと思います。

③オレキシン受容体拮抗薬

これまで睡眠薬として広く用いられてきたベンゾジアゼピン受容体作動薬は過鎮静や筋弛緩作用、せん妄、奇異行動などの問題があり、現在はスボレキサント、レンボレキサントといったオレキシン受容体拮抗薬を第一選択としている先生方も多いかと思います。2024年12月にはダリドレキサント、2025年11月にはボルノレキサントが発売となり、治療の選択肢が増えていきます。いずれも先行の2薬剤よりも作用時間が短く、持ち越し効果が少ない事を特徴としておりますが、中途覚醒や熟眠障害が主体であればスボレキサント、レンボレキサントの方が効果は高いようです。

総合病院の精神科は全国的にも厳しい環境に置かれており、長崎、小松、八戸、福島など他県では閉鎖される所もありますが、当院では積極的に紹介を受けて地域に貢献したいと思っておりますので、御紹介をよろしくお願い申し上げます。

11月 地域連携の会開催報告

11月28日に地域連携の会が富山市内のホテルにて、院外の先生方40名、地域医療機関のコメディカルスタッフの方13名、当院から医師29名、コメディカルスタッフ11名、計93名の参加のもとで盛大に開催されました。市医師会長よりご挨拶をいただいた後、今回は後方連携をテーマとして講演が行われました。まず、当院呼吸器外科部長の土岐医師から『デジタルツールは地域連携をどう変えるか』と題し、DXツールとしての「CAREBOOK」導入の経緯、利点などについてお話がありました。続いてCAREBOOKの活用実績が豊富な、うおざきファミリー病院の地域連携室主任 村上様から講演をいただきました。CAREBOOKを導入することのメリットとして、電話よりも多くの情報（画像データ含む）をやり取りすることができること、チャット形式のため他の業務の合間に複数の施設と同時に転院調整が可能になるなど、時間をより効率的に使えるようになったとのことでした。さらに、職員間の情報共有が行いやすく、担当者不在でも代理の職員が対応できるため、転院調整を滞りなく進められるようになったとのことでした。講演後は、懇親会が開催され、途中には当院の医師とコメディカルスタッフによるミニ演奏会もありました。終始和やかな雰囲気の中で、地域の先生方と当院医師の親睦を深めることができました、有意義な会となりました。

演題名：デジタルツールは地域連携をどう変えるか
呼吸器外科部長 土岐 善紀

高齢化が急速に進む医療現場において、私たちはこれに適合してゆく柔軟性が求められています。昨年12月、厚労省の「新たな地域医療構想等に関する検討会」での取りまとめでは地域ごとの医療機関機能が提示され、急性期拠点機能とともに高齢者救急の受け入れが大きなテーマになりました。一

方、病床の有効利用とDPCの観点からは入院期間の短縮が求められており、受け入れと同時に後方への切れ目のないリレーが質・量ともに重要性を増しています。これまで後方支援では電話とFaxに依存してきましたが、昭和からのオールドツールではタイムラグ解消にも限りがあります。そこで当院では新たなDXツールとして「CAREBOOK」を導入しました。その特徴は、連携する複数の後方施設に一斉打診ができること、電話を待たずに他の連携業務ができること、Faxの誤送信リスクがないことなどが挙げられます。CAREBOOKについて紹介し地域連携の深化を図ってまいりたいと考えております。

（演者抄録、文責 大田 聡）

CAREBOOKによる複数タスクの同時管理



連携室スタッフの声

CAREBOOK導入後 転院調整日数：10日←14日
FAX回数：1回←3回

メリット

- 複数の医療機関への一括打診ができる
- 処方変更や状態の変化に対して、以前の記録を残しつつ追記できる
- 自分の空いた時間に作業ができる。電話を待ち続けなくてよい
- FAXの誤送信の恐怖からの解放

デメリット

- 1 to 1の決め打ちなら電話のほうが早い
- 個人情報の保護ルールがFAXよりも厳しく設定→患者誤認のリスク



研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会

※令和8年1月の地域連携症例検討会の開催はございません。
次の開催は下記のとおりです。ご参加をお待ちしております。

予告

日時：2月10日（火） 19：00～20：00（ハイブリッド開催）

場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 1例 （担当）血管外科
②ミニレクチャー 1題 （担当）呼吸器内科



2. ダイアベティス研究会（旧：糖尿病研究会）

日時：令和8年1月15日（木） 17：30～18：45

場所：当院3階 301会議室

テーマ：糖代謝に関する検査の意味と検査値の見方

講師：検査技師



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

ふれあい地域医療センターからのお知らせ

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。
年末年始のふれあい地域医療センターの業務については以下の
とおりとなっておりますので、よろしくお願いいたします。



12月27日(土)～1月4日(日) 休み 1月5日(月) から通常通り

※なお、救急患者さんの対応に関しては、救急センターへご連絡ください。



研修医のひとりごと

研修医 池田 裕



富山市民病院での初期研修が始まって1年半以上が過ぎましたが、入職時のことがつい先日のように感じます。入職時は今以上に右も左もわかっておらず、大変ご迷惑をおかけしました。各診療科や他院、他施設での研修を通して、短い期間ながらも親身にそして熱心に指導して下さった先生方や優しく丁寧に接して下さったスタッフの方々、患者さんのおかげで日々の考え方や知識などを学び、自分なりに大きく成長できたと思っています。

また、研修医は目の前の知識・手技などに

フォーカスしがちですが、病院・クリニック・施設間における地域連携の大切さを地域研修・救急・外来などから学ぶことができました。お世話になった皆様、ありがとうございました。

今も上級医・スタッフの方々と比べると知識や経験で圧倒的に不足している日々ですが、当院で培った経験をもとに、さらに研鑽を積み、富山への貢献、お世話になった皆様への恩返しができればと思っています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

1月

科 名	医 師 名	不 在 日
内 科	水 野	16日
整形外科・関節再建外科	岡 本	30日
産 婦 人 科	田 中 智	20日
皮 膚 科	大 石	23日
	町 井	5日

科 名	医 師 名	不 在 日
呼吸器・血管外科	湖 東	28日
眼 科	山 田 芳	14日、16日、19日、30日
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	児 島	19日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112 (代) 内線2168

編集後記

今年に入り物価高騰により家計も厳しくなっている中で、私事ですが子供たちの誕生日が11月、12月と続きバースデーケーキやプレゼントなどで出費がかさみました。更にクリスマスやお正月がやってきて追い込みをかけてきます。毎年この時期になると気が重たくなりますが、子供たちが喜び、無事に誕生日を迎えられたことに感謝して一年を締めくくりたいと思う今日この頃です。

ふれあい地域医療センター 梅村 多恵子



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1112 (代) / FAX 076 (422) 1154

メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp

